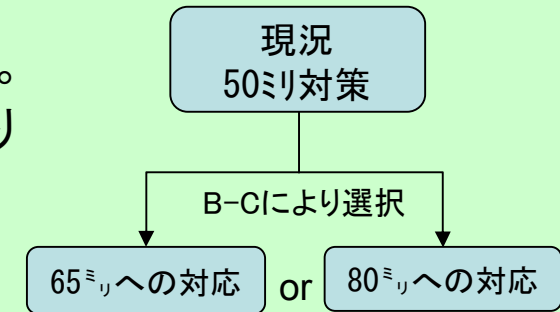


榎尾川の治水目標について

当面の治水目標の設定事例<榎尾川>

■ 治水目標の設定の考え方

- ・ 氾濫解析により、現況での地先の危険度(想定被害)を把握。
- ・ 危険度ⅠもしくはⅡが残れば、想定被害を解消したことにより得られる対策の「効果」と想定被害を解消するために必要な対策の「費用」を算定し事業効率等を考慮した「効果－費用」により、治水施設の整備に必要な当面の治水目標を設定。



【榎尾川の現状】

- ・ 中下流部の河川改修(50mm対策)と上流部のダム建設を実施中。

【氾濫解析の前提条件】

- ・ 1洪水を対象として水位がHWLに達すれば、上流から順次破堤するとして氾濫解析を実施。

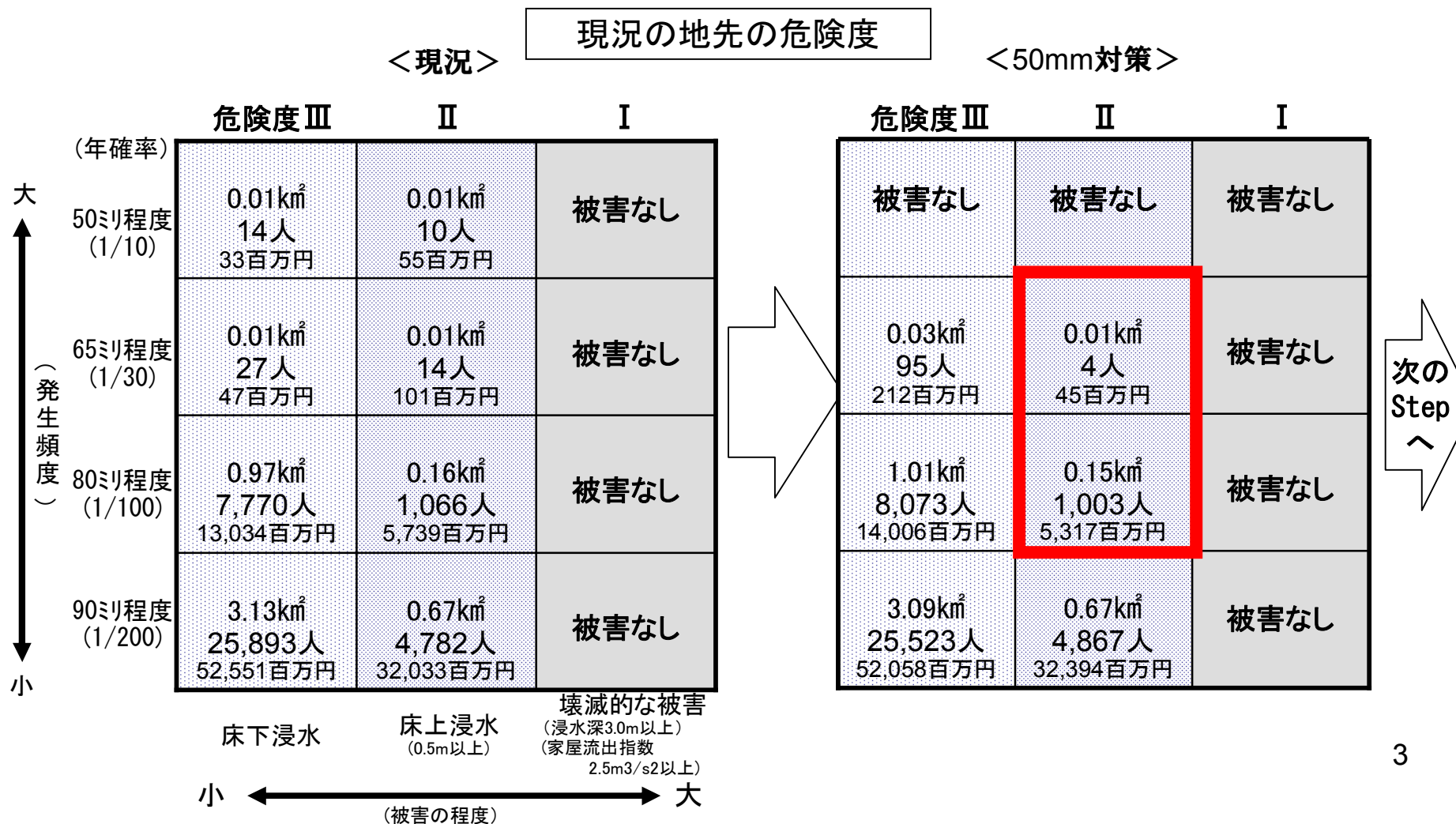
【効果－費用】

- ・ 「効果－費用」により、治水施設の整備に必要な当面の治水目標を設定。

現況での地先の危険度の把握

■ 現況での地先の危険度

- ・ 氾濫解析結果より、時間雨量65,80ミリ降雨に対して危険度Ⅱが残ることを把握。
- ⇒ 「B-C」により、治水施設の整備に必要な当面の治水目標を設定する。



危険度の解消に必要な対策費用

■ 対策費用の検討

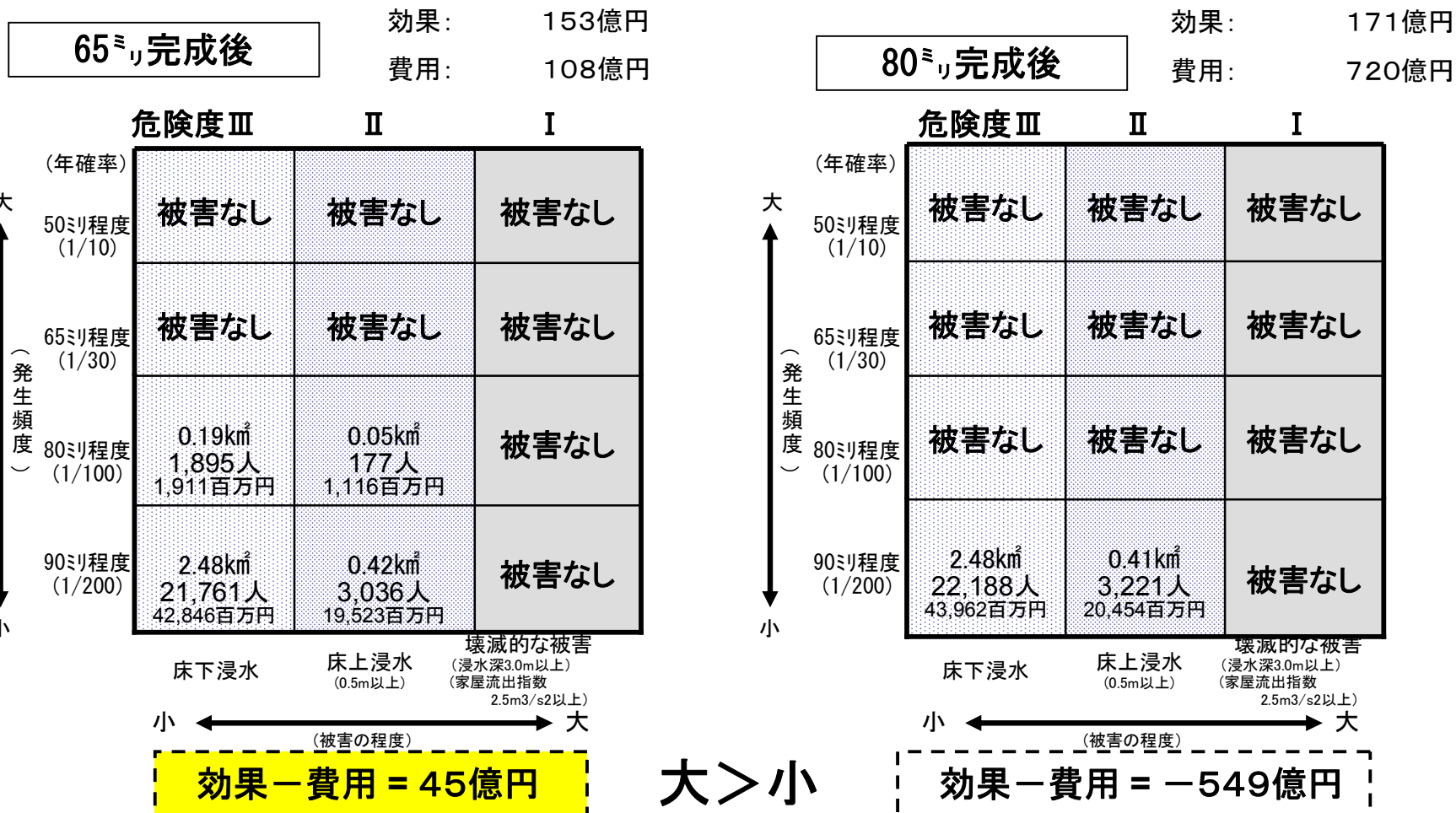
- ・現況から50ミリ対策後、65ミリもしくは80ミリ対策を実施する場合の概算対策費を検討。
- ・当面の治水目標設定に必要な「対策費用(C)」は、ダム＋河川改修、河川改修にて65ミリ、80ミリ対策の最適案を検討。
- ・ただし、具体的な治水手法選択は、当面の治水目標を踏まえ、現地の状況に応じて様々な治水手法を組合せて選択。

当面の治水目標	対策案及び対策費用 (C)	
現況⇒ 時間65ミリ程度への対応	ダム＋河川改修 (108億円)	河川改修 (112億円)
現況⇒ 時間80ミリ程度への対応	ダム＋河川改修 (720億円)	河川改修 (749億円)

当面の治水目標の設定

■ 当面の治水目標の検討結果

・効果－費用により、当面の治水目標を時間雨量65ミリの対応とする。



⇒ 当面の治水目標を時間雨量65ミリの対応とする